

第 20 回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）
競技会場自主的環境影響評価業務委託
特記仕様書

本特記仕様書に記載されていない事項は、「設計業務等共通仕様書」（愛知県建設局）による。

1. 業務名

第 20 回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）競技会場自主的環境影響評価業務委託

2. 業務目的

公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会（以下「発注者」という。）は、第 20 回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）及び愛知・名古屋 2026 アジアパラ競技大会（以下「大会」という。）の開催に向け、競技会場の準備を行っている。

各競技会場は、環境影響評価法、愛知県環境影響評価条例・名古屋市環境影響評価条例等の会場所在自治体の環境影響評価に関する条例に基づく環境影響評価（環境アセス）の必要はない。しかしながら、各競技会場における仮設工事が周辺環境に及ぼす影響の程度を検討するため、「第 20 回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）競技会場環境影響評価調査検討業務委託報告書（以下「調査検討業務」という。）」（委託期間：令和 5 年 6 月 29 日～令和 5 年 12 月 11 日）を実施し、調査結果を踏まえ 3 競技会場については円滑・適切な会場整備に資するため自主的環境影響評価を行う必要性が高いと判断した。

本業務はこれを踏まえ、自主的環境影響評価を実施するにあたり事前モニタリング調査を行い、関係機関、周辺住民に対して環境への影響を説明するための資料とするとともに、工事中及び事後調査の企画立案を行う。

3. 業務期間

契約締結日から 2025 年 3 月 21 日（金）までとする。

4. 業務対象地

業務対象地は、以下の 3 競技会場及びその周辺とする。(図 1 参照)

- ・ 矢作川カヌースラロームコース (カヌー・カヤック (スラローム) 競技会場)
- ・ 小幡緑地 (自転車競技 (マウンテンバイク) 競技会場)
- ・ 田原市赤羽根町大石海岸 (ロングビーチ) 他 (サーフィン競技会場)

5. 業務内容

基本的には「調査検討業務」に基づき、3 競技会場の自主的環境影響評価を実施する。

(1) 業務計画

業務概要、実施方針、実施体制、業務工程等について記載した業務計画書を作成する。

(2) 自主的環境影響評価 矢作川カヌースラロームコース

① 現地踏査、調査計画立案

現地調査を行う前に現地踏査を行い、下記の「②関係者ヒアリング (現地調査前)」を踏まえ、調査計画を立案する。

② 関係者ヒアリング

現地調査前及び予測評価時に各 1 回、関係者へヒアリングを行う。ヒアリングは愛知県内 4 者を想定する。なお、ヒアリングの中で有用な既存資料等の調査情報が得られた場合は、整理を行う。

③ 調査、予測、環境保全措置、評価

環境影響評価項目は、「愛知県環境影響評価条例」(平成 10 年、愛知県条例第 47 号)及び環境影響評価指針(平成 11 年、愛知県告示第 455 号)を参考に、大気質、騒音、振動、水質、植物、動物、生態系、人と自然との触れ合いの活動の場、廃棄物等、温室効果ガス等の 10 項目とする。調査及び予測の手法は、表 1 及び別紙を基本とする。

④ 自主的環境影響評価書の作成

上記の「③調査、予測、環境保全措置、評価」と、「調査検討業務」でとりまとめた会場整備計画、地域特性及び環境影響評価項目選定の更新と、事後調査計画、総合評価の作成を行い、自主的環境影響評価書としてとりまとめる。

(3) 自主的環境影響評価 小幡緑地

① 現地踏査、調査計画立案

現地調査を行う前に現地踏査を行い、下記の「②関係者ヒアリング（現地調査前）」を踏まえ、調査計画を立案する。

② 関係者ヒアリング

現地調査前及び予測評価時に各 1 回、関係者へヒアリングを行う。ヒアリングは愛知県内 4 者を想定する。なお、ヒアリングの中で有用な既存資料等の調査情報が得られた場合は、整理を行う。

③ 調査、予測、環境保全措置、評価

環境影響評価項目は、「名古屋市環境影響評価条例」（平成 10 年、名古屋市条例第 40 号）及び環境影響評価技術指針（平成 11 年、名古屋市告示第 127 号）を参考に、大気質、騒音、振動、水質、植物、動物、廃棄物等、生態系、人と自然との触れ合いの活動の場、温室効果ガス等、安全性の 11 項目とする。調査及び予測の手法は、表 1 及び別紙を基本とする。

④ 自主的環境影響評価書の作成

上記の「③調査、予測、環境保全措置、評価」と、「調査検討業務」でとりまとめた会場整備計画、地域特性及び環境影響評価項目選定の更新と、事後調査計画、総合評価の作成を行い、自主的環境影響評価書としてとりまとめる。

(4) 自主的環境影響評価 田原市赤羽根町大石海岸（ロングビーチ）他

① 現地踏査、調査計画立案

現地調査を行う前に現地踏査を行い、下記の「②関係者ヒアリング（現地調査前）」を踏まえ、調査計画を立案する。

② 関係者ヒアリング

現地調査前及び予測評価時に各 1 回、関係者へヒアリングを行う。ヒアリングは愛知県内 3 者を想定する。なお、ヒアリングの中で有用な既存資料等の調査情報が得られた場合は、整理を行う。

③ 調査、予測、環境保全措置、評価

環境影響評価項目は、「愛知県環境影響評価条例」（平成 10 年、愛知県条例第 47 号）及び環境影響評価指針（平成 11 年、愛知県告示第 455 号）を参考に、植物、動物、生態系の 3 項目とする。調査及び予測の手法は、表 1 及び別紙を基本とする。

④自主的環境影響評価書の作成

上記の「③調査、予測、環境保全措置、評価」と、「調査検討業務」でとりまとめた会場整備計画、地域特性及び環境影響評価項目選定の更新と、事後調査計画、総合評価の作成を行い、自主的環境影響評価書としてとりまとめる。

(5) 報告書作成等

①学識者ヒアリング

現地調査計画及び、予測・環境保全措置・評価の妥当性の確認のため、学識者へのヒアリングを実施する。対象は愛知県内で2名を想定し、資料・記録作成を含むものとする。

有識者は発注者で手配し、謝金及び交通費については見込む。

②地元説明用資料の作成

会場整備計画や自主的環境影響評価等の概要を整理し、地元説明用資料を作成する。

③報告書作成

業務の内容を取りまとめた報告書を作成する。

(6) 打合せ協議

打合せは、業務着手時、中間3回、業務完了時のほか、監督員が必要と認めた時に実施する。

6. 成果品の提出

(1) 提出物

- ・ 報告書（A4版、A3図面はA4折）2部
- ・ 地元説明用資料2部
- ・ 発注者及び関係機関等との打合せ記録簿1部
- ・ 上記の電子データ2セット

(2) 電子データの形式

- ・ PDF形式の報告書
- ・ 報告書を作成するために使用したオリジナルのファイル。
- ・ オリジナルのファイルはMicrosoft Officeアプリ（Word、Excel、PowerPointなど）、CADデータはAutoCADで編集可能な形式にすることとする。
- ・ データの格納媒体はDVDを基本とする。格納媒体には委託業務名、納品日、受託業者名を付記すること。

(3) 提出先

公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会 会場整備課

(4) 提出期限

2025年3月21日（金）

7. 業務工程表等の作成及び進捗状況の報告

受注者は、契約後2週間経過の日もしくは作業着手日の早いほうの期日までに次の書類を作成し、発注者に提出すること。また、業務の進捗状況を毎月末までに発注者に報告するとともに、変更等が発生した場合など、必要に応じて随時報告すること。

- ・業務工程表1部
- ・業務責任者及び担当者連絡先一覧1部

8. 資料提供

発注者は、受注者に対し、本業務を遂行するにあたり必要な資料を、可能な範囲において準備し提供を行う。なお、提供された資料の目的外使用を禁止する。また、本業務の終了後、速やかに発注者に返却するものとする。

9. 業務にあたっての留意事項

- (1) 本委託の春季調査は、2024年5月末までに実施すること。
- (2) 本委託で検討する環境保全措置は、会場の設計や工事に反映させることになるため、工程及びコストの意識をもって対応すること。
- (3) 本業務は、発注者や関係機関等との密接な協議に基づき遂行すること。また、打合せ記録簿を作成し、発注者と相互に確認すること。なお、協議・打合せに係る交通費等の経費は受注者の負担とする。
- (4) 調査に必要な手続き及び関係者との協議に関する資料等は、監督員と調整し作成すること。

10. その他

- (1) 受注者は、業務の全部を一括して第三者に委任し、または請け負わせてはならない。ただし、業務の一部を第三者に委任し、または請け負わせるときは事前に書面にて報告し、発注者の承諾を得なければならない。
- (2) 本事業で発生する成果品など著作物の著作権は、発注者に帰属する。受注者は、発注者の許可なく他にこれを使用することはできない。
- (3) 受注者は、本業務を通じて知り得た情報を契約の目的以外に利用し、または第三者に提供してはならない。また、本業務に関して知り得た情報の漏洩、滅失、棄損の防止、

その他適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。契約終了後も同様とする。

(4)上記の業務内容及び業務にあたっての留意事項に反し、再三の指摘にも関わらず改善しない場合は、契約書の定めに基づき、本業務の委託を破棄することができるものとする。

(5)この仕様書に定めのない事項については、必要に応じて発注者と受注者が協議して決めるものとする。

(6)愛知県公共土木設計業務等委託契約約款を熟知の上、業務遂行にあたること。

11. 資格要件

本業務では、照査技術者を配置する。

管理技術者及び照査技術者は、技術士（建設部門－建設環境、または環境部門－環境保全計画、自然環境保全、環境影響評価）の資格保有者であり、同種・類似業務に10年以上従事した実務経験を有するものでなければならない。



凡例
 □ 会場予定地

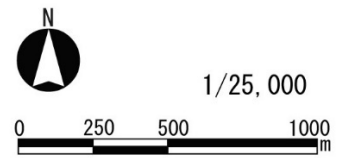


図 1(1) 業務対象地 (矢作川カヌースラロームコース)

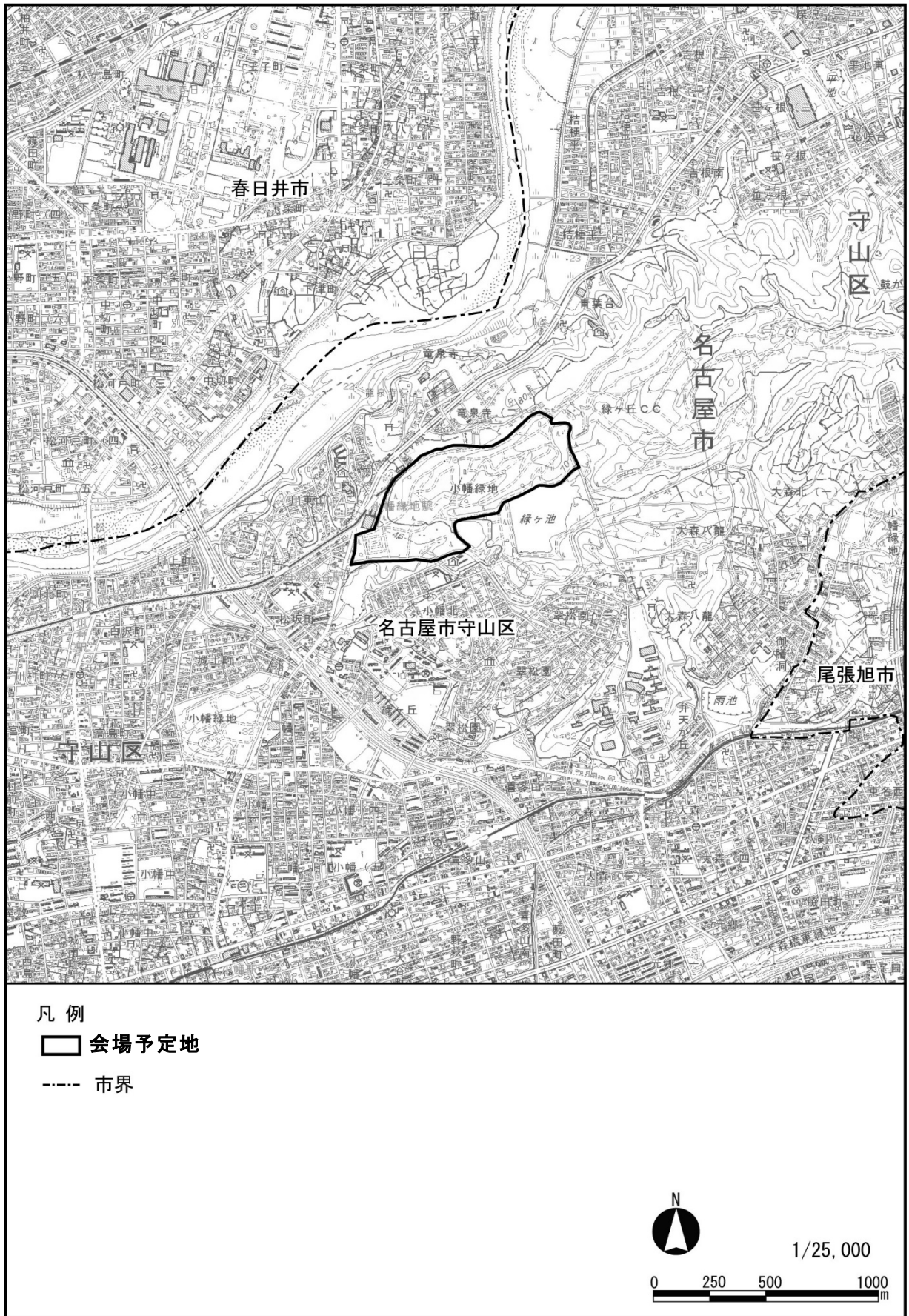


图 1(2) 業務対象地 (小幡緑地)

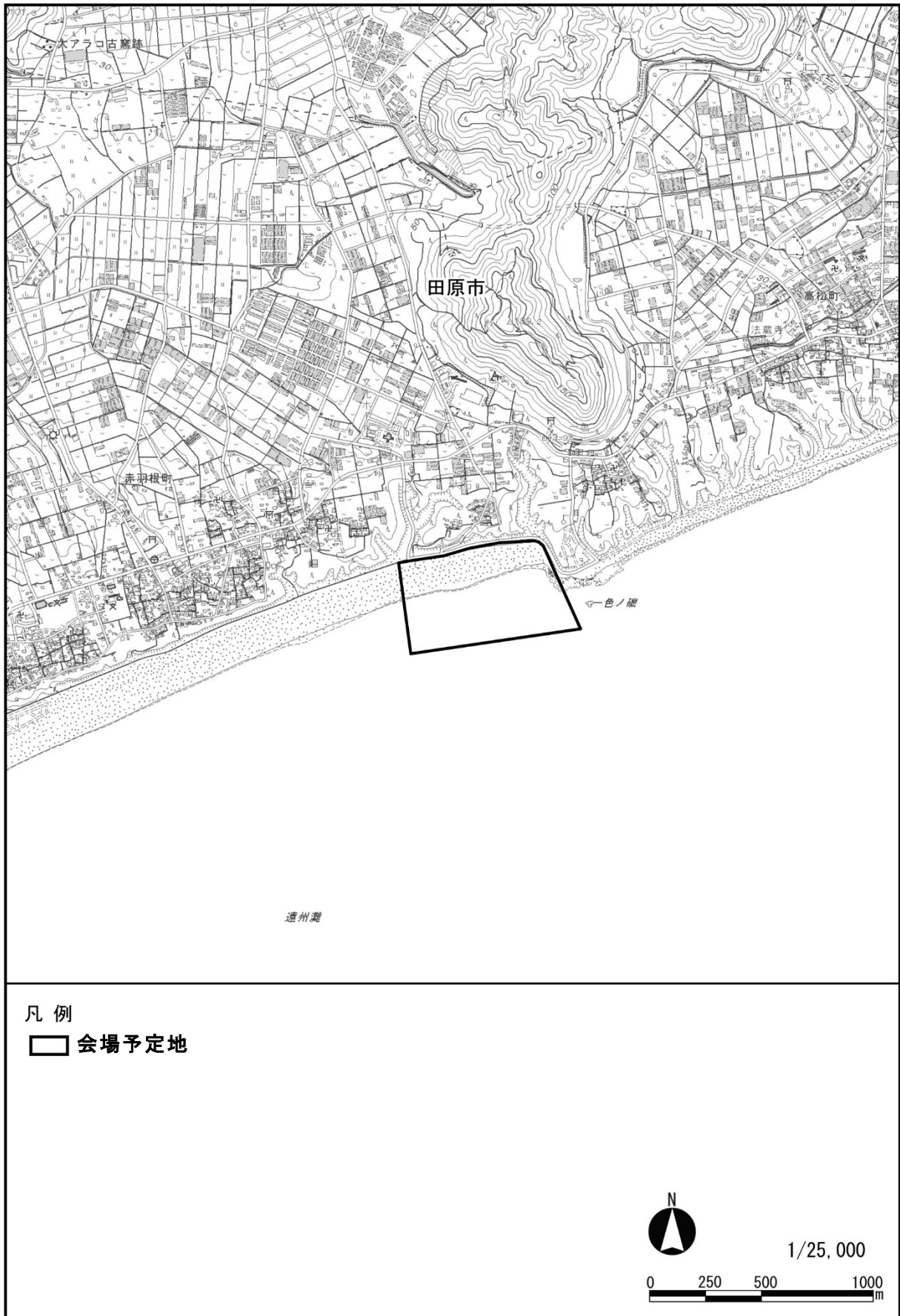


図1(3) 業務対象地（田原市赤羽根町大石海岸（ロングビーチ）他）

表 1(1) 調査及び予測の内容（概要）

項目	調査、予測内容の概要		調査及び予測の数量			
			矢作川カヌースラ ロームコース	小幡緑地	田原市赤羽根町大石海 岸（ロングビーチ）他	
大気質	調査	既存資料調査	二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び粉じん濃度、風向、風速、日射量及び雲量	1式	1式	
		現地調査	自動車交通量（時刻別、車種別、方向別）及び走行速度	2地点、平日及び休日に各1回	2地点、平日及び休日に各1回	
	予測	掘削、盛土等の土工	粉じん濃度(季節別降下ばいじん量)をブルーム式を基本とする経験式により予測	1式(平面予測)	1式(平面予測)	
		建設機械の稼働等	大気汚染物質濃度(窒素酸化物、浮遊粒子状物質)を大気拡散モデルに基づき予測	1式(平面予測)	1式(平面予測)	
		資材等の搬入及び搬出	粉じん濃度(季節別降下ばいじん量)をブルーム式を基本とする経験式により予測	2地点	2地点	
騒音	調査	既存資料調査	環境騒音、道路交通騒音	1式	1式	
		現地調査	環境騒音	1地点、平日及び休日に各1回	2地点、平日及び休日に各1回	
			道路交通騒音、自動車交通量及び走行速度	2地点、平日及び休日に各1回	2地点、平日及び休日に各1回	
	予測	建設機械の稼働等	「建設工事騒音の予測モデル“ASJ CN-Model 2007”」に基づき建設作業騒音（時間率騒音レベル（L _{A5} ））を予測	1式(平面予測)	1式(平面予測)	
		資材等の搬入及び搬出	「道路交通騒音の予測モデル“ASJ RTN-Model 2018”」に基づき道路交通騒音（等価騒音レベル（L _{Aeq} ））を予測	2断面	2断面	
振動	調査	既存資料調査	道路交通振動	1式	1式	
		現地調査	環境振動	1地点、平日及び休日に各1回	2地点、平日及び休日に各1回	
			道路交通振動、地盤卓越振動数、自動車交通量及び走行速度	2地点、平日及び休日に各1回	2地点、平日及び休日に各1回	
	予測	建設機械の稼働等	振動伝搬理論式に基づき建設工事振動（時間率振動レベル（L ₁₀ ））を予測	1式(平面予測)	1式(平面予測)	
		資材等の搬入及び搬出	旧建設省土木研究所の提案式に基づき道路交通振動（時間率振動レベル（L ₁₀ ））を予測	2断面	2断面	
水質	調査	既存資料調査	水質等	1式	1式	
		現地調査	浮遊物質量（SS）、土質等	2地点、6回（土質は1回）	6地点、8回（土質は0回）	
	予測	掘削、盛土等の土工	希釈・混合式、工事計画、事例の引用等に基づき浮遊物質量(SS)への影響を予測	1式	1式	
植物	調査	既存資料調査	関係者へのヒアリングによる植物（維管束植物、植生）の概況把握	1式	1式	1式
		現地調査	任意観察調査による植物相、コドラート調査等による植生図の作成	会場予定地及びその周辺 3回（春・夏・秋）	会場予定地及びその周辺 3回（春・夏・秋）	会場予定地及びその周辺 2回（夏・秋）
	予測	掘削、盛土等の土工	重要な植物種、植物群落等の位置と工事計画との重ね合わせにより植物への影響を予測 間接的影響は、工事計画を踏まえて定性的に予測	会場予定地及びその周辺	会場予定地及びその周辺	会場予定地及びその周辺

表 1(2) 調査及び予測の内容（概要）

項目	調査、予測内容の概要		調査及び予測の数量			
			矢作川カヌースラ ロームコース	小幡緑地	田原市赤羽根町大石海 岸（ロングビーチ）他	
動物	調査	既存資料調査	関係者へのヒアリングによる動物相の概況把握	1式	1式	1式
		現地調査	調査項目	哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類、昆虫類、貝類、甲殻類	哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類、昆虫類、貝類、甲殻類	鳥類、爬虫類、昆虫類、甲殻類
			任意観察調査、任意採集等による動物相の現況把握	会場予定地及びその周辺 適期に1～4回	会場予定地及びその周辺 適期に1～4回	会場予定地及びその周辺 適期に1～3回
			哺乳類のトラップ調査	2地点	2地点	－
			鳥類の定点観察調査	1地点	－	1地点
			鳥類のラインセンス調査	－	1ルート	－
			昆虫類のベイトトラップ調査	2地点	2地点	2地点
		昆虫類のライトトラップ調査（ボックス法）	2地点	2地点	－	
	予測	掘削、盛土等の土工	重要な動物種等、注目すべき生息地の位置と工事計画との重ね合わせにより動物への影響を予測	会場予定地及びその周辺	会場予定地及びその周辺	会場予定地及びその周辺
		資材等の搬入及び搬出	生息環境変化の影響は、工事計画を踏まえて定性的に予測			
生態系	調査	既存資料調査	植物、動物等の調査結果の整理及び生態系に関する文献その他資料の整理により会場予定地の生態系の概況把握	1式	1式	1式
	予測	掘削、盛土等の土工 資材等の搬入及び搬出	工事計画に基づき生態系の変化の程度、種多様性の変化の程度、生態系を特徴づける注目種等の生息・生育環境の変化の程度を予測	会場予定地及びその周辺	会場予定地及びその周辺	会場予定地及びその周辺
人と自然との触れ合いの活動の場	調査	既存資料調査	関係者へのヒアリングにより人と自然との触れ合いの活動の分布状況、資源特性、利用状況等を把握	1式	1式	
		現地調査	現地調査及び聞き取り調査により主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況、利用状況、利用環境を把握	会場予定地内及び下流 5月下旬及び7月下旬の平日及び休日に各1回	会場予定地内の6地点 夏・秋・冬の平日及び休日に各1回	
	予測	掘削、盛土等の土工 建設機械の稼働等 資材等の搬入及び搬出	工事計画に基づき人と自然との触れ合いの活動の場の改変の程度及び内容、利用状況の変化の程度等を予測	1式	1式	
廃棄物等	調査	－	－	－	－	
	予測	掘削、盛土等の土工	工事計画から廃棄物等の種類、発生量等を予測	1式	1式	
温室効果ガス等	調査	－	－	－	－	
	予測	建設機械の稼働等 資材等の搬入及び搬出	工事に伴い発生する温室効果ガス発生量を予測	1式	1式	
安全性	調査	既存資料調査	交通量の状況、交通事故の発生状況、通学路の指定状況（ヒアリング）		1式	
		現地調査	自動車、歩行者及び自転車交通量		3地点、平日及び休日に各1回	
			交通安全施設、交通規制の状況		1式	
	予測	資材の搬入及び搬出	工事計画に基づき事業予定地周辺の発生集中交通量及び工事関係車両出入口における歩行者及び自転車との交錯の状況を予測		3地点	

別紙 調査及び予測の内容（詳細）

1. 矢作川カヌースラロームコース（カヌー・カヤック（スラローム）競技会場）

における自主的環境影響評価内容

環境要素の区分		影響要因の区分 細区分		工事中		
				掘削、盛土等の土工	建設機械の稼働等	資材等の搬入及び搬出
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	1 大気質	硫酸化物				
		窒素化合物		●	●	
		浮遊粒子状物質		●	●	
		粉じん等	●		●	
		有害物質等				
	2 騒音及び超低周波音	建設作業騒音		●		
		道路交通騒音			●	
	3 振動	建設作業振動		●		
		道路交通振動			●	
	4 悪臭	—				
	5 水質	水素イオン濃度				
水の汚れ(生物化学的酸素要求量)						
水の濁り(浮遊物質量)		●				
富栄養化						
有害物質等						
6 水底の底質	—					
7 地形及び地質	重要な地形及び地質					
	地盤環境(地盤の安定性)					
8 地盤・土壌	地盤環境(地盤沈下)					
	土壌環境					
	地下水及び地下水質	地下水の状況				
9 地下水及び地下水質	地下水質					
	日照障害	—				
10 日照障害	—					
	11 その他の環境要素	流向及び流速				
		水温				
反射光						
要素調査の要する環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	12 動物	重要な種及び注目すべき生息地	●	●		
		海域に生息する動物				
	13 植物	重要な種及び群落	●			
海域に生息する植物						
14 生態系	地域を特徴づける生態系	●	●			
価値と歴史を有する環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	15 景観	景観資源及び主要な眺望点並びに主要な眺望景観				
	16 人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合い活動の場	●	●		
		地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況	—			
環境負荷の大きい環境要素の調査、予測及び評価の要する環境要素	18 廃棄物等	廃棄物				
		残土その他の副産物	●			
19 温室効果ガス等	温室効果ガス等		●	●		

●：環境影響評価項目として選定する項目

○：は工事中及び陸域（河川）は対象外の項目

(1) 大気質

[調査]

既存資料調査	大気質	調査目的	対象事業実施区域及びその周辺の現況大気質濃度の把握 予測・評価のためのバックグラウンド濃度の把握
		調査事項	二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び粉じん濃度
		調査方法	常監局データの整理
	気象	調査目的	対象事業実施区域周辺の現況気象概況の把握 大気汚染物質の拡散計算に用いる気象条件の把握
		調査事項	風向、風速、日射量及び雲量
		調査方法	常監局及び地方気象台データの整理
現地調査	自動車交通量	調査目的	対象事業実施区域周辺における交通量及び走行速度の現況把握
		調査事項	自動車交通量（時刻別、車種別、方向別）及び走行速度
		調査方法	数取器等を使用し、連続して交通量を求める。車種分類は、小型車、大型車及び二輪車とする。 走行速度はストップウォッチで区間通過時間を計測する。
		調査場所	工事関係車両の主な走行ルートとして想定される対象事業実施区域周辺道路の沿道で行う。
		調査時期	1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の各1日（24時間）で行う。

[予測]

工事中	掘削、盛土等の土工	予測事項	土工による粉じん濃度
		予測項目	粉じん濃度（季節別降下ばいじん量）
		予測条件	気象条件 工事の区分ごとの工事の種別等 建設機械の組み合わせ（ユニット） 工事施工範囲 等
		予測方法	ブルーム式を基本とする経験式による予測
		予測場所	対象事業実施区域及びその周辺
		予測時期	会場の整備による降下ばいじん量が最大となる時期

工事中	建設機械の稼働等	予測事項	建設機械の稼働による大気汚染物質濃度(窒素酸化物、浮遊粒子状物質)
		予測項目	二酸化窒素濃度(年平均値及び日平均値の年間98%値) 浮遊粒子状物質濃度(年平均値及び日平均値の2%除外値)
		予測条件	気象条件 排出源条件(排出源の配置、稼働台数、排出係数、排出量) 予測地点周辺におけるバックグラウンド濃度等
		予測方法	大気拡散モデルに基づく予測
		予測場所	対象事業実施区域周辺
		予測時期	建設機械の稼働による大気汚染物質排出量が最大となる時期
		資材等の搬入及び搬出	予測事項
	予測項目		二酸化窒素濃度(年平均値及び日平均値の年間98%値) 浮遊粒子状物質濃度(年平均値及び日平均値の2%除外値)
	予測条件		気象条件 排出源条件(排出源の配置、排出係数) 道路条件(道路構造) 交通条件(背景交通量、工事関係車両交通量、走行速度) 予測地点周辺におけるバックグラウンド濃度等
	予測方法		大気拡散モデルに基づく予測
	予測場所		工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業事業実施区域周辺道路の沿道
	予測時期		工事関係車両による大気汚染物質排出量が最大となる時期
	資材等の搬入及び搬出		予測事項
		予測項目	粉じん濃度(季節別降下ばいじん量)
		予測条件	気象条件 排出源条件(排出源の配置、基準降下ばいじん量等) 道路条件(道路構造) 交通条件(背景交通量、工事関係車両交通量、走行速度)等
		予測方法	プルーム式を基本とする経験式による予測
		予測場所	工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業事業実施区域周辺道路の沿道
		予測時期	工事関係車両による降下ばいじん量が最大となる時期

(2) 騒音

[調査]

既存資料調査	調査目的	対象事業実施区域周辺の騒音の概況把握
	調査事項	環境騒音、道路交通騒音
	調査方法	愛知県等による騒音測定結果の整理
現地調査	調査目的	対象事業実施区域周辺における騒音の現況把握
	調査事項	環境騒音（等価騒音レベル（ L_{Aeq} 、 L_{A5} ）） 道路交通騒音（等価騒音レベル（ L_{Aeq} ）） 自動車交通量（時刻別、車種別、方向別自動車交通量）及び走行速度
	調査方法	環境騒音、道路交通騒音は、「環境騒音の表示・測定方法（JIS Z 8731）」に定める方法 自動車交通量は小型車、大型車の2車種及び二輪車に分類し、数取り器等を用いて計測する方法 走行速度はストップウォッチで区間通過時間を計測する方法
	調査場所	環境騒音は、対象事業実施区域及びその周辺で行う。 道路交通騒音及び自動車交通量は、工事関係車両の主な走行ルートとして想定される対象事業実施区域周辺道路の沿道で行う。
	調査時期	環境騒音は、1年を通して平均的な日と考えられる平日及び休日の6時～22時で行う。 道路交通騒音は、1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の6時～22時で行う。 自動車交通量及び走行速度は、1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の6時～22時で行う。

[予測]

工事中	建設機械の稼働等	予測事項	建設機械の稼働による騒音レベル
		予測項目	建設作業騒音（時間率騒音レベル（ L_{A5} ））
		予測条件	建設機械の種類別パワーレベル 建設機械の種類別稼働台数及び配置 地表面の状況
		予測方法	「建設工事騒音の予測モデル“ASJ CN-Model 2007”」に基づく予測（機械別予測）
		予測場所	対象事業実施区域周辺
		予測時期	大会の整備工事において、騒音の影響が最も大きくなると予測される時期
	資材等の搬入及び搬出	予測事項	工事関係車両の走行による騒音レベル
		予測項目	道路交通騒音（等価騒音レベル（ L_{Aeq} ））
		予測条件	道路条件（道路構造） 交通条件（背景交通量、工事関係車両交通量、走行速度）
		予測方法	「道路交通騒音の予測モデル“ASJ RTN-Model 2018”」に基づく予測
		予測場所	工事関係車両の主な走行ルートとして想定される対象事業実施区域周辺道路の沿道
		予測時期	工事関係車両の走行による騒音の影響が最大となる時期

(3) 振 動

[調 査]

既存資料 調査	調査目的	対象事業実施区域及びその周辺の振動の概況把握
	調査事項	道路交通振動
	調査方法	愛知県等による振動測定結果の整理
現地調査	調査目的	対象事業実施区域周辺の振動の現況把握
	調査事項	環境振動（時間率振動レベル（ L_{10} ）） 道路交通振動（時間率振動レベル（ L_{10} ）） 地盤卓越振動数 自動車交通量（時刻別、車種別）及び走行速度
	調査方法	環境振動については「振動レベル測定方法」（JIS Z 8735）、道路交通振動については「振動規制法施行規則」（昭和51年総理府令第58号）に定める方法 地盤卓越振動数は、「道路環境影響評価の技術手法」（国道交通省）に示される方法 自動車交通量は小型車、大型車の2車種及び二輪車に分類し、数取り器等を用いて計測する方法 走行速度はストップウォッチで区間通過時間を計測する方法
	調査場所	環境振動は、対象事業実施区域及びその周辺で行う。 道路交通振動及び自動車交通量は、工事関係車両の主な走行ルートとして想定される対象事業実施区域周辺道路の沿道で行う。
	調査時期	環境振動は、1年を通して平均的な日と考えられる平日及び休日の6時～20時で行う。 道路交通振動は、1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の6時～20時で行う。 地盤卓越振動数は、道路交通振動調査時にあわせて実施する。 自動車交通量及び走行速度は、1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の6時～20時で行う。

[予 測]

工事中	建設機械 の稼働等	予測事項	建設機械の稼働による振動レベル
		予測項目	建設工事振動（時間率振動レベル（ L_{10} ））
		予測条件	建設機械の種類別基準点振動レベル 建設機械の種類別稼働台数及び配置 地盤特性
		予測方法	振動伝搬理論式に基づく予測
		予測場所	対象事業実施区域周辺
		予測時期	大会の整備工事において、振動の影響が最も大きくなると予測される時期
		予測事項	工事関係車両の走行による振動レベル
	資材等の 搬入及び 搬出	予測項目	道路交通振動（時間率振動レベル（ L_{10} ））
		予測条件	道路条件（道路構造） 交通条件（背景交通量、工事関係車両交通量、走行速度） 地盤特性
		予測方法	旧建設省土木研究所の提案式に基づく予測
		予測場所	対象事業実施区域周辺道路の沿道
		予測時期	工事関係車両の走行による振動の影響が最大となる時期

(4) 水 質

[調 査]

既存資料 調査	調査目的	対象事業実施区域及びその周辺の水質及び流量の概況把握
	調査事項	対象事業実施区域及び対象事業実施区域周辺の水質及び流量の概況把握
	調査方法	文献その他の資料の整理
現地調査	調査目的	対象事業実施区域及びその周辺の水質等の現況把握
	調査事項	浮遊物質量 (SS) 流量 土質 (粒度分布)
	調査方法	浮遊物質量 (SS) 及び流量は「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年環境庁告示第46号) 及び「水質調査方法」(昭和46年環水管30号) 等に定める方法 土質 (粒度分布) は沈降試験による方法
	調査場所	対象事業実施区域及びその周辺
	調査時期	浮遊物質量 (SS) 、濁度及び流量は会場(河川)整備期間と同じ11月から3月に毎月1回及び降雨時 土質 (粒度分布) は1回

[予 測]

工事中	掘削、盛土等の土工	予測事項	会場の整備工事に伴う水質への影響
		予測項目	会場の整備工事に伴う浮遊物質量(SS) への影響
		予測条件	工事計画及び排水処理計画
		予測方法	希釈・混合式もしくは事例の引用等に基づく予測
		予測場所	水の濁りに係る環境影響を的確に把握できる地点
		予測時期	工事に伴う水質への影響が最大となる時期

(5) 動物

[調査]

既存資料 調査	調査目的	会場予定地の動物相の概況把握
	調査事項	哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類、昆虫類、貝類、甲殻類
	調査方法	関係者へのヒアリングによる情報の収集整理
現地調査	調査目的	会場予定地の動物相の現況把握
	調査事項	哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類、昆虫類、貝類、甲殻類
	調査方法	哺乳類は、任意観察調査、トラップ調査、バットディテクター調査により行う。 鳥類は、定点観察調査、任意観察調査により行う。 爬虫類・両生類は、任意観察調査により行う。 魚類は、タモ網、投網、カゴ網による任意採集、潜水観察の各調査により行う。 昆虫類は、任意採集、バイトトラップ、ライトトラップの各調査により行う。 貝類は、陸産貝類が任意観察調査、淡水産貝類は任意採集調査により行う。 甲殻類（エビ・カニ類）は、タモ網による任意採集調査により行う。
	調査場所	会場予定地及びその周辺
	調査時期	哺乳類は、春季、夏季、秋季及び早春季の年4回 鳥類は、繁殖期及び越冬期の年2回 爬虫類・両生類は、春季、夏季、秋季及び早春季の年4回 魚類は、夏季及び秋季（渇水期）の年2回 昆虫類は、春季、夏季及び秋季の年3回 貝類は、陸産貝類が梅雨期の年1回、淡水産貝類が夏季及び秋季（渇水期）の年2回 甲殻類（エビ・カニ類）は、夏季及び秋季（渇水期）の年2回

[予測]

工事中	掘削、盛土等の土工	予測事項	工事による動物への影響
		予測項目	重要な動物種及び注目すべき生息地の改変の程度（分布又は生息環境）
		予測条件	工事計画（改変区域、工事関係車両のルート等）
	資材等の搬入及び搬出	予測方法	重要な動物種、注目すべき生息地の位置と工事計画との重ね合わせ 生息環境改変の影響は、工事計画を踏まえた定性的な予測
		予測場所	会場予定地及びその周辺
		予測時期	工事期間中

(6) 植 物

[調 査]

既存資料 調査	調査目的	会場予定地の植物の概況把握
	調査事項	維管束植物、植生
	調査方法	関係者へのヒアリングによる情報の収集整理
現地調査	調査目的	会場予定地の植物の現況把握
	調査事項	植物相（維管束植物）及び植生
	調査方法	植物相は、任意観察調査により行う。 植生は、相観による植生区分、コドラート調査等により植生図を作成する。
	調査場所	会場予定地及びその周辺
	調査時期	春季、夏季及び秋季の年3回

[予 測]

工事中	土地の改 変、切 土・盛 土・掘削 等の土工	予測事項	工事の実施による植物への影響
		予測項目	保全を図るべき植物種、保全を図るべき区域等の改変の程度
		予測条件	工事計画（改変区域 等）
		予測方法	保全を図るべき植物種及び区域等の位置と工事計画との重ね合わせ 間接的環境影響は、工事計画を踏まえた定性的な予測
		予測場所	会場予定地及びその周辺
		予測時期	工事期間中

(7) 生態系

[調査]

既存資料 調査	調査目的	会場予定地の生態系の概況把握
	調査事項	動植物その他の自然環境に係る概況 複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況
	調査方法	植物、動物等の調査結果の整理 生態系に関する文献その他資料の整理
	調査場所	会場予定地及びその周辺

[予測]

工事中	掘削、盛土等の土工 資材等の搬入及び搬出	予測事項	工事による生態系への影響
		予測項目	注目種等の位置又は分布、及び生息又は生育環境の改変の程度
		予測条件	工事計画（改変区域、工事関係車両のルート 等） 動植物の調査及び予測結果
		予測方法	工事計画に基づく定性的な予測
		予測場所	会場予定地及びその周辺
		予測時期	工事期間中

(8) 人と自然との触れ合いの活動の場

[調査]

既存資料調査	調査目的	会場予定地周辺の主要な人と自然との触れ合いの活動の場の概況把握
	調査事項	人と自然との触れ合いの活動の場の概要 人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況、資源特性、利用状況等
	調査方法	関係者へのヒアリングによる情報の収集整理
現地調査	調査目的	会場予定地及び下流の主要な人と自然との触れ合いの活動の場の現況把握
	調査事項	主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況
		主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況
		主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用環境
	調査方法	現地調査及び聞き取り調査
調査場所	会場予定地内及び下流（阿摺ダムまで）	
調査時期	5月下旬（アユ釣り盛期）及び7月下旬（夏休み）の平日及び休日に各1回	

[予測]

工事中	掘削、盛土等の土工建設機械の稼働等資材等の搬入及び搬出	予測事項	工事による人と自然との触れ合いの活動の場への影響
		予測項目	人と自然との触れ合いの活動の場の改変の程度及び内容
			人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況の変化の程度
		予測条件	工事計画（改変区域 等）
		予測方法	工事計画に基づく定性的な予測
予測時期	工事期間中		

(9) 廃棄物等

[予 測]

工事中	掘削、盛土等の土工	予測事項	工事中に発生する廃棄物等の種類及び発生量
		予測項目	残土その他の副産物の種類及び発生量
		予測条件	工事計画
		予測方法	工事計画から廃棄物等の種類、発生量を予測
		予測時期	整備工事期間中

(10) 温室効果ガス等

[予 測]

工事中	建設機械の稼働等・資材等の搬入及び搬出	予測事項	工事に伴い発生する温室効果ガス発生量
		予測項目	工事に伴い発生する温室効果ガス発生量（二酸化炭素換算）
		予測条件	・ 工事計画 [建設機械の稼働] ・ 建設機械の種類別稼働台数 ・ 建設機械の種類別燃料消費量または電力消費量 ・ 燃料原単位または電力原単位 [工事関係車両の走行] ・ 工事関係車両台数（車種別） ・ 車種別燃料種別走行量（車種別） ・ 車種別燃料消費原単位（車種別）
		予測方法	活動区分別温室効果ガス発生量の合計を推計
		予測時期	整備工事期間中

2 小幡緑地（自転車競技（マウンテンバイク）競技会場）

における自主的環境影響評価内容

環境要素の区分		影響要因の区分		工事中		
		細区分		土地の掘削等 の盛土・工盛	建設機械の稼働	建設資材の運搬
1	大気質	二酸化窒素			●	●
		浮遊粒子状物質			●	●
		粉じん		●		
2	悪臭	—				
3	風害	—				
4	騒音	建設作業騒音			●	
		道路交通騒音				●
5	振動	建設作業振動			●	
		道路交通振動				●
6	低周波音	—				
7	水質・底質	—		●		
8	地下水	地下水質				
9	土壌	—				
10	地盤	地下水位				
		地盤変位				
11	地形・地質	—				
12	日照障害	日影				
13	電波障害	テレビジョン放送電波				
14	地域分断	コミュニティの状況				
15	安全性	交通安全				●
16	廃棄物等	廃棄物等		●		
17	植物	重要な種及び重要な群落		●		
18	動物	重要な種及び注目すべき生息地		●		●
19	生態系	地域を特徴づける生態系に応じた注目種等		●		●
20	緑地	緑地の状況				
21	水循環	—				
22	景観	地域景観				
23	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合い活動の場		●	●	●
24	文化財	—				
25	温室効果ガス等	温室効果ガス			●	●
		オゾン層破壊物質				
26	ヒートアイランド現象	ヒートアイランド現象の発生				

●：環境影響評価項目として選定する項目

■：は工事中は対象外の項目

(1) 大気質

[調査]

既存資料調査	大気質	調査目的	対象事業実施区域及びその周辺の現況大気質濃度の把握 予測・評価のためのバックグラウンド濃度の把握
		調査事項	二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び粉じん濃度
		調査方法	常監局データの整理
	気象	調査目的	対象事業実施区域及びその周辺の現況気象概況の把握 大気汚染物質の拡散計算に用いる気象条件の把握
		調査事項	風向、風速、日射量及び雲量
		調査方法	常監局及び地方気象台データの整理
現地調査	自動車交通量	調査目的	対象事業実施区域周辺における交通量及び走行速度の現況把握
		調査事項	自動車交通量（時刻別、車種別、方向別）及び走行速度
		調査方法	数取器等を使用し、連続して交通量を求める。車種分類は、小型車、大型車及び二輪車とする。 走行速度はストップウォッチで区間通過時間を計測する。
		調査場所	工事関係車両の主な走行ルートとして想定される対象事業実施区域周辺道路の沿道で行う。
		調査時期	1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の各1日（24時間）で行う。

[予 測]

工事中	土地の 改変、切 土・盛 土・掘削 等の土工	予測事項	土工による粉じん濃度
		予測項目	粉じん濃度（季節別降下ばいじん量）
		予測条件	気象条件 工事の区分ごとの工事の種別等 建設機械の組み合わせ（ユニット） 工事施工範囲 等
		予測方法	プルーム式を基本とする経験式による予測
		予測場所	対象事業実施区域及びその周辺
		予測時期	会場の整備による降下ばいじん量が最大となる時期
		建設機 械の稼働	予測事項
	予測項目		二酸化窒素濃度（年平均値及び日平均値の年間98%値） 浮遊粒子状物質濃度（年平均値及び日平均値の2%除外値）
	予測条件		気象条件 排出源条件（排出源の配置、稼働台数、排出係数、排出量） 予測地点周辺におけるバックグラウンド濃度 等
	予測方法		大気拡散モデルに基づく予測
	予測場所		対象事業実施区域周辺
	予測時期		建設機械の稼働による大気汚染物質排出量が最大となる時期
	建設資 材の運搬		予測事項
		予測項目	二酸化窒素濃度（年平均値及び日平均値の年間98%値） 浮遊粒子状物質濃度（年平均値及び日平均値の2%除外値）
		予測条件	気象条件 排出源条件（排出源の配置、排出係数） 道路条件（道路構造） 交通条件（背景交通量、工事関係車両交通量、走行速度） 予測地点周辺におけるバックグラウンド濃度
		予測方法	大気拡散モデルに基づく予測
		予測場所	工事関係車両の主な走行ルートとして想定される事業事業実施区域周 辺道路の沿道
		予測時期	工事関係車両による大気汚染物質排出量が最大となる時期

(2) 騒音

[調査]

既存資料調査	調査目的	対象事業実施区域及びその周辺の騒音の概況把握
	調査事項	環境騒音、道路交通騒音
現地調査	調査方法	「名古屋市の騒音 環境騒音編」(名古屋市)の整理 「名古屋市の騒音 自動車騒音・振動編」(名古屋市)の整理
	調査目的	対象事業実施区域及びその周辺における騒音の現況把握
	調査事項	環境騒音(等価騒音レベル(L _{aeq} 、L _{A5})) 道路交通騒音(等価騒音レベル(L _{Aeq})) 自動車交通量(時刻別、車種別、方向別自動車交通量)及び走行速度
	調査方法	環境騒音、道路交通騒音は、「環境騒音の表示・測定方法(JIS Z 8731)」に定める方法 自動車交通量は小型車、大型車の2車種及び二輪車に分類し、数取り器等を用いて計測する方法 走行速度はストップウォッチで区間通過時間を計測する方法
	調査場所	環境騒音は、対象事業実施区域及びその周辺で行う。 道路交通騒音及び自動車交通量は、工事関係車両の主な走行ルートとして想定される対象事業実施区域周辺道路の沿道で行う。
調査時期	環境騒音は、1年を通して平均的な日と考えられる平日及び休日の6時～22時で行う。 道路交通騒音は、1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の6時～22時で行う。 自動車交通量及び走行速度は、1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の6時～22時で行う。	

[予測]

工事中	建設機械の稼働	予測事項	建設機械の稼働による騒音レベル
		予測項目	建設作業騒音(時間率騒音レベル(L _{A5}))
		予測条件	建設機械の種類別パワーレベル 建設機械の種類別稼働台数及び配置 地表面の状況
		予測方法	「建設工事騒音の予測モデル“ASJ CN-Model 2007”」に基づく予測(機械別予測)
		予測場所	対象事業実施区域周辺
		予測時期	大会の整備工事において、騒音の影響が最も大きくなると予測される時期
		建設資材の運搬	予測事項
	予測項目		道路交通騒音(等価騒音レベル(L _{Aeq}))
	予測条件		道路条件(道路構造) 交通条件(背景交通量、工事関係車両交通量、走行速度)
	予測方法		「道路交通騒音の予測モデル“ASJ RTN-Model 2018”」に基づく予測
	予測場所		工事関係車両の主な走行ルートとして想定される対象事業実施区域道路の沿道
	予測時期		工事関係車両の走行による騒音の影響が最大となる時期

(3) 振 動

[調 査]

既存資料 調査	調査目的	対象事業実施区域周辺の振動の概況把握
	調査事項	道路交通振動
	調査方法	「名古屋市の騒音 自動車騒音・振動編」(名古屋市)の整理
現地調査	調査目的	対象事業実施区域周辺の振動の現況把握
	調査事項	環境振動(時間率振動レベル(L ₁₀)) 道路交通振動(時間率振動レベル(L ₁₀)) 地盤卓越振動数 自動車交通量(時刻別、車種別)及び走行速度
	調査方法	環境振動については「振動レベル測定方法」(JIS Z 8735)、道路交通振動については「振動規制法施行規則」(昭和51年総理府令第58号)に定める方法 地盤卓越振動数は、「道路環境影響評価の技術手法」(国道交通省)に示される方法 自動車交通量は小型車、大型車の2車種及び二輪車に分類し、数取り器等を用いて計測する方法 走行速度はストップウォッチで区間通過時間を計測する方法
	調査場所	環境振動は、対象事業実施区域及びその周辺で行う。 道路交通振動及び自動車交通量は、工事関係車両の主な走行ルートとして想定される対象事業実施区域周辺道路の沿道で行う。
	調査時期	環境振動は、1年を通して平均的な日と考えられる平日及び休日の6時～20時で行う。 道路交通振動は、1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の6時～20時で行う。 地盤卓越振動数は、道路交通振動調査時にあわせて実施する。 自動車交通量及び走行速度は、1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の6時～20時で行う。

[予 測]

工事中	建設機械 の稼働	予測事項	建設機械の稼働による振動レベル
		予測項目	建設工事振動(時間率振動レベル(L ₁₀))
		予測条件	建設機械の種類別基準点振動レベル 建設機械の種類別稼働台数及び配置 地盤特性
		予測方法	振動伝搬理論式に基づく予測
		予測場所	対象事業実施区域周辺
		予測時期	大会の整備工事において、振動の影響が最も大きくなると予測される時期
	建設資材 の運搬	予測事項	工事関係車両の走行による振動レベル
		予測項目	道路交通振動(時間率振動レベル(L ₁₀))
		予測条件	道路条件(道路構造) 交通条件(背景交通量、工事関係車両交通量、走行速度) 地盤特性
		予測方法	旧建設省土木研究所の提案式に基づく予測
		予測場所	対象事業実施区域周辺道路の沿道
		予測時期	工事関係車両の走行による振動の影響が最大となる時期

(4) 水質

[調査]

既存資料調査	調査目的	対象事業実施区域及び対象事業実施区域周辺の水質の概況把握
	調査事項	対象事業実施区域及び対象事業実施区域周辺の水質
	調査方法	「公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」（名古屋市）、「名古屋市環境白書」（名古屋市）の整理
現地調査	調査目的	対象事業実施区域及びその周辺の水質の現況把握
	調査事項	浮遊物質（SS）
	調査方法	浮遊物質（SS）は「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年環境庁告示第46号）に定める方法
	調査場所	対象事業実施区域及びその周辺の公共用水域
	調査時期	会場（コース）整備期間中と同じの9月から3月に毎月1回及び降雨時

[予測]

工事中	土地の 改変、 切盛 土・掘削 等の土工	予測事項	会場の整備工事に伴う水質への影響
		予測項目	会場の整備工事に伴う浮遊物質（SS）への影響
		予測条件	工事計画及び排水処理計画
		予測方法	工事計画、事例の引用等に基づく予測
		予測場所	会場の整備工事に伴い発生する濁水が流入する可能性のある公共用水域の地点
		予測時期	工事に伴う水質への影響が最大となる時期

(5) 安全性

[調査]

既存資料調査	調査目的	対象事業実施区域周辺の交通安全の概況把握
	調査事項	交通量の状況 交通事故の発生状況 通学路の指定状況
	調査方法	以下の資料の収集・整理及び関係者へのヒアリング。 「名古屋市一般交通量概況」(名古屋市) 「名古屋市内の交通事故」(名古屋市) 「愛知の交通事故」(愛知県警察本部)
	調査場所	対象事業実施区域周辺
現地調査	調査目的	対象事業実施区域周辺の交通安全の現況把握
	調査事項	自動車、歩行者及び自転車交通量 交通安全施設、交通規制の状況
	調査方法	通学路の指定状況は、聞き取りにより調査を行う。 自動車、歩行者及び自転車交通量は、数取器等を用いて測定する。 交通安全施設、交通規制の状況は、現地踏査により調査を行う。
	調査場所	通学路の指定状況及び交通安全施設、交通規制の状況は対象事業実施区域周辺で行う。 自動車交通量は、対象事業実施区域周辺で行う。 歩行者及び自転車交通量は、対象事業実施区域周辺で行う。
調査時期	通学路の指定状況、交通安全施設及び交通規制の状況は1回 自動車、歩行者及び自転車交通量は、1年を通して平均的な交通量と考えられる平日及び休日の6～22時の16時間で行う。	

[予測]

工事中	建設資材の運搬	予測事項	工事関係車両の走行による交通安全への影響
		予測項目	対象事業実施区域周辺の発生集中交通量 工事関係車両出入口における歩行者及び自転車との交錯の状況
		予測条件	工事関係車両の走行ルート及び発生集中交通量 背景交通量 安全施設の状況
		予測方法	工事計画に基づく予測
		予測場所	対象事業実施区域周辺 対象事業実施区域出入口
		予測時期	工事関係車両台数が最大になると予測される時期

(6) 廃棄物等

[予 測]

工事中	土地の改変、切土・盛土・掘削等の土工	予測事項	工事中に発生する廃棄物等の種類及び発生量
		予測項目	建設系廃棄物（建設廃材、掘削残土等）の種類及び発生量
		予測条件	工事計画
		予測方法	工事計画から廃棄物等の種類、発生量及び再資源化量を予測
		予測時期	整備工事期間中

(7) 植 物

[調 査]

既存資料調査	調査目的	会場予定地の植物の概況把握
	調査事項	維管束植物、植生
	調査方法	関係者へのヒアリングによる情報の収集整理
現地調査	調査目的	会場予定地の植物の現況把握
	調査事項	植物相（維管束植物）及び植生
	調査方法	植物相は、任意観察調査により行う。 植生は、相観による植生区分、コドラート調査等により植生図を作成する。
	調査場所	会場予定地及びその周辺（園内の会場未利用地は対象外）
	調査時期	春季、夏季及び秋季の年3回

[予 測]

工事中	土地の改変、切土・盛土・掘削等の土工	予測事項	工事の実施による植物への影響
		予測項目	保全を図るべき植物種、保全を図るべき区域等の改変の程度
		予測条件	工事計画（改変区域 等）
		予測方法	保全を図るべき植物種及び区域等の位置と工事計画との重ね合わせ 間接的環境影響は、工事計画を踏まえた定性的な予測
		予測場所	会場予定地及びその周辺
		予測時期	工事期間中

(8) 動物

[調査]

既存資料調査	調査目的	会場予定地の動物相の概況把握
	調査事項	哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類、昆虫類、貝類、甲殻類
	調査方法	関係者へのヒアリングによる情報の収集整理
現地調査	調査目的	会場予定地の動物相の現況把握
	調査事項	哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類、昆虫類、貝類、甲殻類
	調査方法	哺乳類は、任意観察調査、トラップ調査、バットディテクター調査により行う。 鳥類は、ラインセンサス調査、任意観察調査により行う。 爬虫類・両生類は、任意観察調査により行う。 魚類は、タモ網、投網、カゴ網による任意採集の各調査により行う。 昆虫類は、任意採集、ベイトトラップ、ライトトラップの各調査により行う。 貝類は、陸産貝類が任意観察調査、淡水産貝類は任意採集調査により行う。 甲殻類（エビ・カニ類）は、タモ網による任意採集調査により行う。
	調査場所	会場予定地及びその周辺（園内の会場未利用地は対象外）
	調査時期	哺乳類は、春季、夏季、秋季及び早春季の年4回 鳥類は、繁殖期及び越冬期の年2回 爬虫類・両生類は、春季、夏季、秋季及び早春季の年4回 魚類は、夏季の年1回 昆虫類は、春季、夏季及び秋季の年3回 貝類は、陸産貝類が梅雨期の年1回、淡水産貝類が夏季の年1回 甲殻類（エビ・カニ類）は、夏季の年1回

[予測]

工事中	土地の 改変、切土・盛土・掘削等の土工 建設資材の運搬	予測事項	工事による動物への影響
		予測項目	保全を図るべき動物種、保全を図るべき区域等の改変の程度
		予測条件	工事計画（改変区域、工事関係車両のルート等）
		予測方法	重要な動物種、注目すべき生息地の位置と工事計画との重ね合わせ 生息環境改変の影響は、工事計画を踏まえた定性的な予測
		予測場所	会場予定地及びその周辺
		予測時期	工事期間中

(9) 生態系

[調査]

既存資料 調査	調査目的	会場予定地の生態系の概況把握
	調査事項	動植物その他の自然環境に係る概況 複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況
	調査方法	植物、動物等の調査結果の整理 生態系に関する文献その他資料の整理
	調査場所	会場予定地及びその周辺

[予測]

工事中	土地の改切 土・盛土・掘削 等の土工	予測事項	工事による生態系への影響
		予測項目	生態系の変化の程度、種多様性の変化の程度、生態系を特徴づける注目種等の生息・生育環境の変化の程度
		予測条件	工事計画（改変区域、工事関係車両のルート 等） 動植物の調査及び予測結果
	建設資材 の運搬	予測方法	工事計画に基づく定性的な予測
		予測場所	会場予定地及びその周辺
		予測時期	工事期間中

(10) 人と自然との触れ合いの活動の場

[調査]

既存資料調査	調査目的	会場予定地周辺の人と自然との触れ合いの活動の場の概況把握
	調査事項	人と自然との触れ合いの活動の場の概要 人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況、資源特性、利用状況等
	調査方法	関係者へのヒアリングによる情報の収集整理
現地調査	調査目的	会場予定地の主要な人と自然との触れ合いの活動の場の現況把握
	調査事項	主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況
		主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況
		主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用環境
	調査方法	現地調査及び聞き取り調査
調査場所	会場予定地及びその周辺（園内の会場未利用地は対象外）	
調査時期	夏季、秋季及び冬季の平日及び休日に各1回	

[予測]

工事中	土地の 改変、 切盛 土・掘削 等の土工 建設機械 の稼働 建設資材 の運搬	予測事項	工事による人と自然との触れ合いの活動の場への影響
		予測項目	人と自然との触れ合いの活動の場の改変の程度及び内容
			人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況の変化の程度
			人と自然との触れ合いの活動の場に対する環境影響
		予測条件	工事計画（改変区域 等）
		予測方法	工事計画に基づく定性的な予測
環境影響は、大気質、騒音、振動、水質の予測結果から推計			
予測時期	工事期間中		

(11) 温室効果ガス等

[予 測]

工事中	土地の改変、切盛土・掘削土等の建設資材の運搬	予測事項	工事に伴い発生する温室効果ガス発生量
		予測項目	工事に伴い発生する温室効果ガス発生量（二酸化炭素換算）
		予測条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事計画 [建設機械の稼働] ・ 建設機械の種類別稼働台数 ・ 建設機械の種類別燃料消費量または電力消費量 ・ 燃料原単位または電力原単位 [建設資材の使用] ・ 建設資材の使用量 ・ 建設資材の種類別排出量原単位 [工事関係車両の走行] ・ 工事関係車両台数（車種別） ・ 車種別燃料種別走行量（車種別） ・ 車種別燃料消費原単位（車種別） [廃棄物の発生] ・ 建設系廃棄物の種類別・処分方法別発生量 ・ 建設系廃棄物の種類別・処分方法別排出係数
		予測方法	活動区分別温室効果ガス発生量の合計を推計
		予測時期	整備工事期間中

3 田原市赤羽根町大石海岸（ロングビーチ）他（サーフィン競技会場）

における自主的環境影響評価内容

環境要素の区分		影響要因の区分		工事中		
		細区分		掘削、盛土等の土工	建設機械の稼働等	資材等の搬入及び搬出
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	1 大気質	硫黄酸化物				
		窒素酸化物				
		浮遊粒子状物質				
		粉じん等				
		有害物質等				
	2 騒音及び超低周波音	建設作業騒音				
		道路交通騒音				
	3 振 動	建設作業振動				
		道路交通振動				
	4 悪 臭	—				
	5 水 質	水素イオン濃度				
水の汚れ(生物化学的酸素要求量)						
水の濁り(浮遊物質質量)						
富栄養化						
6 水底の底質	—					
7 地形及び地質	重要な地形及び地質					
8 地盤・土壌	地盤環境(地盤の安定性)					
	地盤環境(地盤沈下)					
	土壌環境					
9 地下水及び地下水質	地下水の状況					
	地下水質					
10 日照阻害	—					
11 その他の環境要素	流向及び流速					
	水温					
	反射光					
要調査の環境要素の予測及び評価されるべき環境要素	12 動 物	重要な種及び注目すべき生息地	●		●	
		海域に生息する動物				
	13 植 物	重要な種及び群落	●			
海域に生息する植物						
14 生態系	地域を特徴づける生態系	●		●		
人と自然との触れ合いの活動の場	15 景 観	景観資源及び主要な眺望点並びに主要な眺望景観				
	16 人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合い活動の場				
	17 地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況	—				
環境負荷の軽減を図るための対策	18 廃棄物等	廃棄物				
		残土その他の副産物				
19 温室効果ガス等	温室効果ガス等					

●：環境影響評価項目として選定する項目

○：は工事中は対象外の項目

(1) 動物

[調査]

既存資料調査	調査目的	会場予定地の動物相の概況把握
	調査事項	哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類、昆虫類、貝類、甲殻類
	調査方法	関係者へのヒアリングによる情報の収集整理
現地調査	調査目的	会場予定地の動物相の現況把握
	調査事項	鳥類、爬虫類、昆虫類、甲殻類
	調査方法	鳥類は、定点観察調査、任意観察調査により行う。 爬虫類は、アカウミガメの産卵上陸の可能性調査を行う。 昆虫類は、任意採集、バイトトラップの各調査により行う。 甲殻類は、道路横断（移動）するカニ類の確認調査を行う。
	調査場所	鳥類、爬虫類及び昆虫類は、会場予定地及びその周辺 甲殻類は、会場予定地背後の樹林地及び道路周辺
	調査時期	鳥類は、夏季の年1回 爬虫類は、アカウミガメ産卵上陸期に3回 昆虫類は、夏季及び秋季の年2回 甲殻類は、夏季の年1回

[予測]

工事中	掘削、盛土等の土工 資材等の搬入及び搬出	予測事項	工事による動物への影響
		予測項目	重要な動物種及び注目すべき生息地の改変の程度（分布又は生息環境）
		予測条件	工事計画（改変区域、工事関係車両のルート 等）
		予測方法	重要な動物種、注目すべき生息地の位置と工事計画との重ね合わせ 生息環境改変の影響は、工事計画を踏まえた定性的な予測
		予測場所	会場予定地及びその周辺
		予測時期	工事期間中

(2) 植 物

[調 査]

既存資料 調査	調査目的	会場予定地の植物の概況把握
	調査事項	維管束植物、植生
	調査方法	関係者へのヒアリングによる情報の収集整理
現地調査	調査目的	会場予定地の植物の現況把握
	調査事項	植物相（維管束植物）及び植生
	調査方法	植物相は、任意観察調査により行う。 植生は、相観による植生区分、コドラート調査等により植生図を作成する。
	調査場所	会場予定地及びその周辺
	調査時期	夏季及び秋季の年2回

[予 測]

工事中	掘削、盛土等の土工	予測事項	工事の実施による植物への影響
		予測項目	重要な植物種、植物群落の改変の程度（分布又は生育環境）
		予測条件	工事計画（改変区域 等）
		予測方法	重要な植物種、植物群落の位置と工事計画との重ね合わせ 間接的環境影響は、工事計画を踏まえた定性的な予測
		予測場所	会場予定地及びその周辺
		予測時期	工事期間中

(3) 生態系

[調査]

既存資料 調査	調査目的	会場予定地の生態系の概況把握
	調査事項	動植物その他の自然環境に係る概況 複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況
	調査方法	植物、動物等の調査結果の整理 生態系に関する文献その他資料の整理
	調査場所	会場予定地及びその周辺

[予測]

工事中	掘削、盛土等の土工 資材等の搬入及び搬出	予測事項	工事による生態系への影響
		予測項目	注目種等の位置又は分布、及び生息又は生育環境の改変の程度
		予測条件	工事計画（改変区域、工事関係車両のルート 等） 動植物の調査及び予測結果
		予測方法	工事計画に基づく定性的な予測
		予測場所	会場予定地及びその周辺
		予測時期	工事期間中